

PENGGUNAAN METODE STRUKTURAL ANALITIK SINTETIK (SAS)
DALAM MENINGKATKAN KEMAMPUAN MEMBACA HURUF
HIRAGANA

(Penelitian Eksperimenterhadap Siswa Kelas XI SMA Puragabaya
Tahun Ajaran 2014-2015)

Tri Kurniyawaty
1000745

ABSTRAK

Dalam pembelajaran bahasa Jepang, mempelajari huruf hiragana adalah salah satu hal yang penting. Terutama untuk pembelajar tingkat pemula. Dalam mempelajari huruf hiragana aspek membaca adalah sebuah kendala yang kerap kali dirasakan pembelajar. Hal ini dikarenakan beberapa hal, diantaranya adalah metode pembelajaran yang monoton. Oleh sebab itu diperlukan metode yang tepat guna meningkatkan kemampuan membaca huruf hiragana. Metode Struktural Analitik Sintetik (SAS) merupakan metode yang biasa digunakan dalam pembelajaran huruf latin yang pada penelitian ini ditransformasikan ke dalam pembelajaran huruf hiragana. Tujuan dari penelitian ini adalah untuk mengetahui pengaruh penggunaan metode SAS dalam upaya meningkatkan kemampuan membaca huruf hiragana pada pembelajar tingkat pemula. Penelitian ini menggunakan metode penelitian eksperimen murni, yaitu adanya kelas eksperimen dan kelas kontrol. Desain penelitian yang digunakan oleh penulis adalah *pretest* dan *posttest*. Instrumen penelitian yang digunakan adalah RPP, soal tes dan angket. Sampel dalam penelitian ini adalah 32 siswa kelas XI SMA Puragabaya Bandung tahun ajaran 2014-2015, yang dibagi menjadi dua kelas, yakni kelas eksperimen dan kelas kontrol. Berdasarkan hasil analisis data yang telah dilakukan, diperoleh hasil *t* hitung untuk *posttest* sebesar 0,2451, dan nilai *t* tabel untuk 5% adalah 2,04 dengan db 30. Dari hal tersebut dapat disimpulkan *t* hitung <*t* tabel. Hal ini berarti tidak terdapat perbedaan hasil belajar yang signifikan antara kelas eksperimen (kelas yang menggunakan metode SAS) dan kelas kontrol (kelas yang tidak menggunakan metode SAS).

Kata kunci : Metode Struktural Anailtik Sintetik, huruf *hiragana*

THE USE OF SYNTHETIC ANALYTICAL STRUCTURAL (SAS) METHOD
IN IMPROVING *HIRAGANA* READING ABILITY
(Experimental research toward Second Grade Students of SMA Puragabaya 2014-2015)

Tri Kurniyawaty
1000745

ABSTRACT

In Japanese language learning, studying *hiragana* is one of the important things, especially for beginner learner. In understanding hiragana, reading aspect is an obstacle which is always perceived by students. It occurs because of some reasons, one of them is a monotonous learning method. Therefore, it requires a proper method to improve reading *hiragana* ability. Synthetic Analytical Structural (SAS) is a method commonly used in studying alphabet which in this research was transformed into hiragana learning. The goal of this research is to investigate the influence of SAS method in improving reading *hiragana* ability for beginner learner. This research utilized a pure experimental research with experimental class and control class usage. Research design used by the author was pretest and posttest. The research instruments applied were lesson plans, question test, and questionnaire. Sample in the research was 32 students in SMA Puragabaya Bandung 2014-1015 class XI. The sample was divided into two classes, experimental and control class. Based on the data analysis result done, the results obtained for the t in the posttest is 0.2451, and the table value for 5% is 2.04 by db30. From this conclusion we can conclude that $t < t_{\text{table}}$. It means that there is no significant difference between the experimental class (class using SAS) and a control class (a class that does not use the method of SAS) learning outcomes.

Keywords: Synthetic Analytical Structural Method, *hiragana*

ひらがなを読む能力を高めるための
Struktural Analitik Sintetik 方法 (SAS) の使用
(2014-2015 学年度プラガバヤ高等学校の
二年生に対する実験研究)

トリ・クルニヤワティ
1000745

要約

日本語を勉強する際に、ひらがなを勉強するのは一つの大変なことである。特に初級の学習者のためである。ひらがなを勉強するうちに、読書の局面は学習者にとって、よく一つの制約になっている。それはいくつかのものため、例えば単調な教授法などである。従ってひらがなを読む能力を高めるために適切な方法が必要である。*Struktural Analitik Sintetik* (SAS) 方法はローマ字の学習中に一般的に使用されたが、本研究はひらがなの学習中に変換された。本研究の目的はひらがなを読む能力を高める中に、SAS 方法が影響するかと知るためである。本研究の方法では実践研究であり、研究のデザインは「事前テストと事後テストのデザイン」である。研究の道具は教案とテストとアンケートである。研究のサンプルは 2014-2015 学年度のバンドンプラガバヤ高等学校の二年生の学生が 32 名である。その中からずつ実験クラスとコントロールクラスに分けた。データの分析した結果は事後テストの t 得点=0,2451、 t 表(5%)=2,04 ということが分かった。その結果による、 t 得点は t 表より低い。そのことは、実験クラス (SAS 方法を使うクラス) とコントロールクラス (SAS 方法を使わないクラス) と比べると、有意義な学習の結果の相違がない。

キーワード : *Struktural Analitik Sintetik* 方法、ひらがな

ひらがなを読む能力を高めるための
Struktural Analitik Sintetik 方法 (SAS) の使用
(2014-2015 学年度プラガバヤ高等学校の
二年生に対する実験研究)

トリ・クルニヤワティ
1000745

A. 序論

日本語を勉強する時、学習者に必要なことは文法だけではなく、字のことも大事である。日本語で字の種類が四つある。すなわち、ひらがな、カタカナ、漢字とローマ字。*Bahasa.kompasiana.com* のある記事には世界の言語機関によると、日本語が文法的と複雑さの面で、一つの難しい言語になったと言われる。その複雑ことは字の学習である。例えば、初級の学習者にとってプラガバヤ高等学校の二年生によって、ひらがなを読むことが難しいと考えられる。言語中に読むのは知識を得るため、大事なことであり、それも四つの技能言語には必要な役割である(Resmin dan Juanda, 2009:73)。そのために、学習者の読む能力を高める方法が必要である。

Struktural Analitik Sintetik 方法 (SAS) はインドネシア語でローマ字を読む時に、よく使用である。この方法は、言語学に沿って、文章が通信中に有意義な言語単位ことである。文はその下の言語単位に構成され、すなわち単語と音節と文字である(Hartati, Ernalis dan Churiah, 2009:141)。

上の説明した背景および理論によって、著者は本研究のタイトルが ひらがなを読む能力を高めるための *Struktural Analitik Sintetik* 方法 (SAS) の使用 (2014-2015 学年度プラガバヤ高等学校の二年生に対する実験研究)。

B. 本論

1. 研究の問題

本研究の問題は次のとおりである。

- a. Struktural Analitik Sintetik 方法を使用する前に二年生の学生のひらがなを読む能力はどうである。
- b. Struktural Analitik Sintetik 方法を使用した後に二年生の学生のひらがなを読む能力はどうである。
- c. ひらがなを読む能力を高めさせる努力の SAS 方法が影響するはあるか。
- d. ひらがなを読む学習中に学生のレスポンスはどうである。

2. 研究の目的

問題に基づいて、本研究の目的は次のとおりである。

- a. Struktural Analitik Sintetik 方法を使用する前に二年生の学生のひらがなを読む能力を知ることである。
- b. Struktural Analitik Sintetik 方法を使用した後に二年生の学生のひらがなを読む能力を知ることである。
- c. ひらがなを読む能力を高めさせる努力の SAS 方法が影響するのを知ることである。
- d. ひらがなを読む学習中に学生のレスポンスを知ることである。

3. サンプル

研究のサンプルはの 2014-2015 学年のバンドンプラガバヤ高等学校二年生の学生が 32 名である。その中からずつ実験クラスとコントロールクラスに分けた。それは実験クラスのとしてサイアンス学科の二年生の 16 名とコントロールクラスの

としてソーシャル学科の二年生の 30 名である。それで、研究のサンプルは *purposive sampling* のテクニックを使用した。

4. 研究の方法

本研究の方法では実験研究であり、研究のデザインは「事前テストと事後テストのデザイン」である。本研究に実験クラスは SAS 方法を使用したが、コントロールクラスは通常の方法を使用した。

5. 研究の道具

研究の道具は次のとおりである。

a. 教案

教案は本研究に実用的な指針になった。本研究の使用した教案が三つある。その教案は研究した時に実験クラスで使用した。

b. テスト

テストは学習成果を測定するために、単位特定の学習した後、よく使う測定道具である(Sutedi, 2011:157)。本研究はテストを使うのが学生によるひらがなを読む能力を高めさせる努力の SAS 方法が影響を測定するためである。

c. アンケート

アンケートは間接的にデータを集まり方法だというと研究者は答え者と間接的に質問する(Sukmadinata, 2012:219)。アンケートを使用したのはひらがなを読む学習中に学生のレスポンスを知るためである。

6. データの分析

a. テストデータの分析

本研究の処理の技術は t 得点を使った。テストの結果が纏めてから、処理の技術は次のようなである。

- 1) t 得点を計算する表を作る。
- 2) 実験クラス (x) とコントロールクラス (y) の平均点を計算する。公式は次のようなである。

$$M_x = \frac{\sum x}{N_1} \quad M_y = \frac{\sum y}{N_2}$$

M_x = 実験クラス (x) の平均値

M_y = コントロールクラス (y) の平均値

Σ_x = X 変数の合計点数

Σ_y = Y 変数の合計点数

N_1 = X 変数のサンプル数

N_2 = Y 変数のサンプル数

- 3) 標準偏差を計算する。公式は次のようなである。

$$Sd_x = \sqrt{\frac{\sum x^2}{N_1}} \quad Sd_y = \sqrt{\frac{\sum y^2}{N_2}}$$

Sd_x = X 変数の標準偏差

Sd_y = Y 変数の標準偏差

- 4) 実験クラスとコントロールクラスのエラースタンダードを計算する。

$$SEMx = \frac{Sdx}{\sqrt{N_1 - 1}} \quad SEMy = \frac{Sdy}{\sqrt{N_2 - 1}}$$

- 5) 実験クラスとコントロールクラスのエラースタンダードの相違を計算する。

$$SEMxy = \sqrt{SEMx^2 + SEMy^2}$$

6) t 得点を計算する。

$$t_o = \frac{Mx - My}{SEM_{x-y}}$$

7) t 得点に対して t 表で解釈する。

t 得点 > t 表 H_k (作業仮設)は受け入れた

t 得点 < t 表 H_k (作業仮設)は拒否された

8) t 得点と t 表を比べ。

$$db = (N_x + N_y) - 1$$

事前テストと事後テストのデータの分析が次のような
である。

1) 事前テストのデータ

実験クラスとコントロールクラスの事前テストの計算結果

	実験クラス	コントロールクラス
平均値	58,53	45,59
標準偏差	20,64	15,91
エラースタンダード	5,33	4,11
SEM _{xy}	6,7306	

$$t_o = \frac{Mx - My}{SEM_{x-y}} = \frac{58,53 - 45,59}{6,7306} = \frac{12,94}{6,7306} = 1,9225$$

2) 事後テストのデータ

実験クラスとコントロールクラスの事後テストの計算結果

	実験クラス	コントロールクラス
平均値	74,25	72,31
標準偏差	22,65	20,65
エラースタンダード	5,85	5,33

SEM_{xy}	7,9140
------------	--------

$$t_o = \frac{Mx - My}{SEM_{x-y}} = \frac{74,25 - 72,31}{7,9140} = \frac{1,94}{7,9140} = 0,2451$$

計算の結果に基づき、 t 得点=0,2451、それに $db=31$ 、 t 表(5%)=2,04 ということが分かった。本研究の t 得点は t 表より低いから、作業仮設(Hk)は拒否され、ゼロ仮設(Ho)は受け入れた。その意味は実験クラス (SAS 方法を使うクラス) とコントロールクラス (SAS 方法を使わないクラス) と比べると、有意義な学習の結果の相違がない。しかし、実験クラスに事後テストの平均値結果は高めったと分かった。

b. アンケートデータの分析

$$P = \frac{f}{n} \times 100\%$$

概要 :

P = 答え者に答え回数の割合

f = 答えの答え者数

n = 答え者数

アンケートのデータの解釈

0%	いない
1% - 5%	ほとんどいない
6% - 25%	少ない
26% - 49%	半分以下

50%	半分
51% - 75%	半部以上
76% - 95%	かなり多い
96% - 99%	ほとんど全体
100%	全体

(Afiefah, 2013:30)

アンケートを分析した結果によると、ほとんど実験クラスの学生たち（答え者）はひらがなを読む能力が上がったので、SAS 方法がひらがなの一つの方法になるといわれる。つまり、SAS 方法はひらがなを読む能力を高めるために、効果ができたといわれる。

C. 結論

本研究の結論は次のようなである。

1. SAS 方法で処置をする前に実験クラス（SAS 方法を使うクラス）とコントロールクラス（SAS 方法を使わないクラス）と比べると、有意義な学習の結果の相違がない。
2. 事後テストの結果によると、実験クラス（SAS 方法を使うクラス）とコントロールクラス（SAS 方法を使わないクラス）と比べると、有意義な学習の結果の相違がない。
3. SAS 方法で処置をした後に、実験クラスはコントロールクラスより事後テストの平均値がもっと高いである。その上に、事後テストの平均値は事前テストの平均値より高めった。それはひらがなを読む能力を高めさせる努力の SAS 方法が影響するのである。
4. アンケートの分析によると、だいたい答え者は良い印象と思われる。SAS 方法がひらがなを読む学習ときに簡単になったといわれる。

D. 提案

本研究の結論による、著者は高校学生と日本語の教師と次の著者に提案を挙げた。その提案は次のようなである。

1. 学生に

SAS 方法はひらがなを読む能力を高めることができるから、この方法はどこでも一人で継続の練習するのがいい。

2. 日本語の教師に

この方法は以前日本語でまだ使っていなかったので、今興味があれば使い、ちゃんと修正されたほうがいい。

3. 次の著者に

本研究について完備するのはいいことである。本研究には不足事が多いから、次の著者はよくに研究しなければならない。

参考文献

- Afieyah, Amaliya. 2013. *Penggunaan Metode Al-Barqy dalam Upaya Peningkatan Kemampuan Membaca Huruf Hiragana (Penelitian Kuasi Eksperimen terhadap Siswa Kelas X7 SMAN 15 Bandung.* Skripsi Sarjana pada FPBS UPI Bandung: Tidak diterbitkan.
- Hartati, Ermalis dan Churiah. 2009. *Pendidikan Bahasa dan Sastra Indonesia di Kelas rendah.* Bandung: UPI Press.
- Resmin, Novi & Juanda, Dadan. 2009. *Pendidikan Bahasa dan Sastra Indonesia di Kelas Tinggi.* Bandung: UPI Press.
- Sukmadinata, Syaodih. 2012. *Metode Penelitian Pendidikan.* Bandung: PT Remaja Rosdakarya.
- Sutedi, Dedi. 2011. *Penelitian Pendidikan Bahasa Jepang.* Bandung: Humaniora.
- Tanpa Nama (2012). *Mampukah Kita Menaklukkan Bahasa Tersulit Ke-3 di Asia?* [online]. Tersedia:

<http://bahasa.kompasiana.com/2012/09/06/mampukah-kita-menaklukkan-bahasa-tersulit-ke-3-di-asia-491225.html> [6September 2012]